

医薬品WGの設置について

2024年6月26日

医薬品WG設置準備事務局

構成

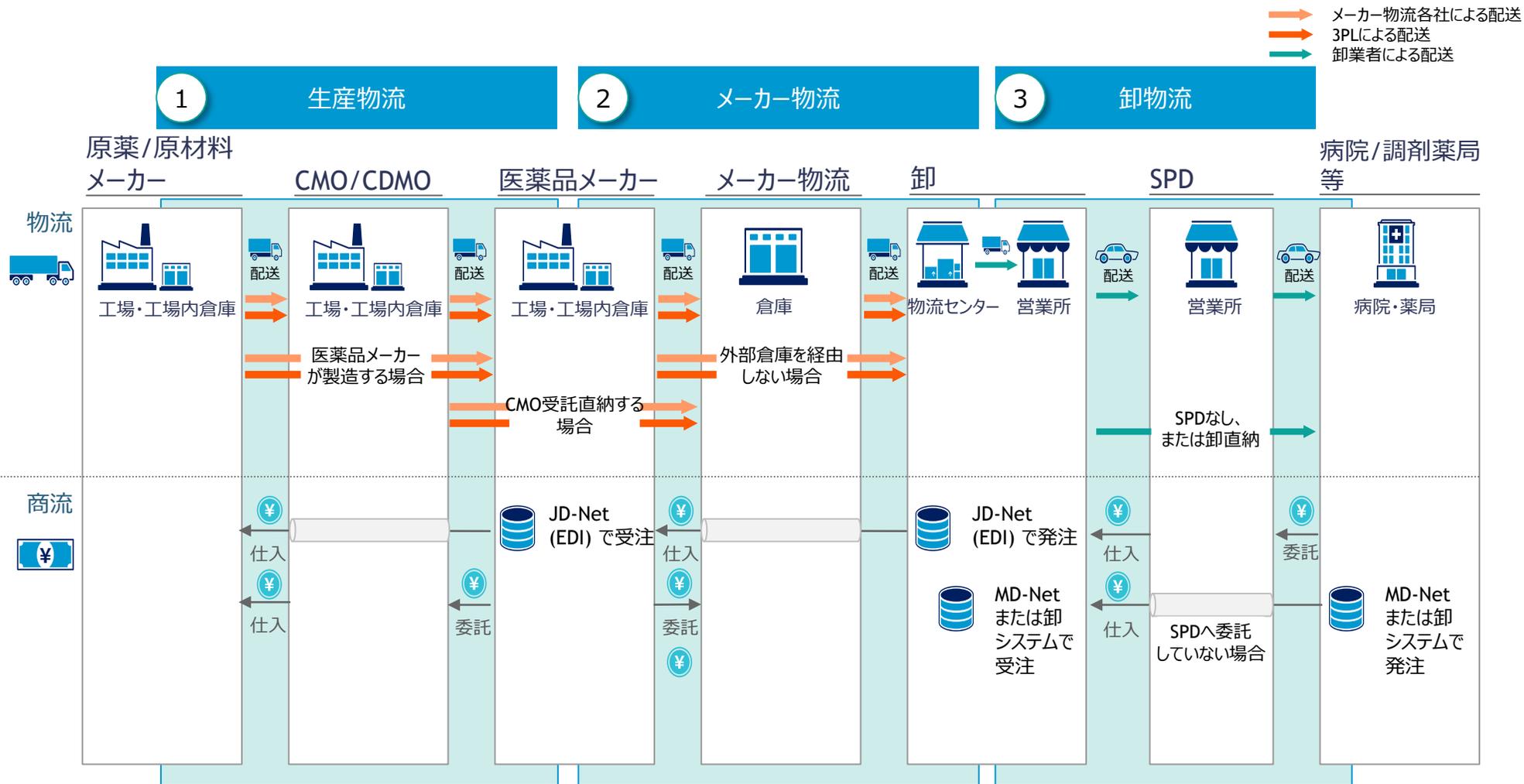
I. 医薬品業界・医薬品物流の概要

II. これまでの取組・課題

III. 医薬品WG設置の提案

I. 医薬品における物流

- 医薬品業界では大きく3つの物流に大別される
- 検討を進めながら、深掘りする箇所（物流領域）を特定



I. 医薬品物流の特徴

- 日本の医薬品業界における物流は、その特異性と高い要求基準により特徴づけられる。



高い品質管理基準

- 医薬品は人体に直接影響を及ぼすため、物流においても厳格な品質管理が求められる。特に温度管理や湿度管理が重要（常温、低温、超低温）
- GDP（Good Distribution Practice）などのガイドラインに準拠した管理が必要



トレーサビリティ

- 医薬品の製造から最終消費者に届くまでの過程を追跡するためのシステムが確立されている。これにより、万が一のリコール時にも迅速に対応可能。バーコードやRFID（無線周波数識別）技術が用いられている



特殊な取り扱い

- 一部の医薬品は取扱いに特別な注意が必要。例えば、毒物や劇薬、麻薬類は専用の保管場所や輸送手段が求められる
- 高価なバイオ医薬品や遺伝子治療薬も、破損や劣化を防ぐために厳重な管理が必要



物流センターの役割

- 医薬品物流におけるハブとして、専門の物流センターが機能している。これらのセンターでは、保管、検品、出荷などの機能が集約されている
- 各地に設置された物流センターは、迅速な配送を可能にするために重要な役割を果たしている



配送の迅速性と確実性

- 緊急医薬品の需要に対応するため、24時間体制の配送サービスが提供されている。特に病院や薬局への緊急配送が重視される

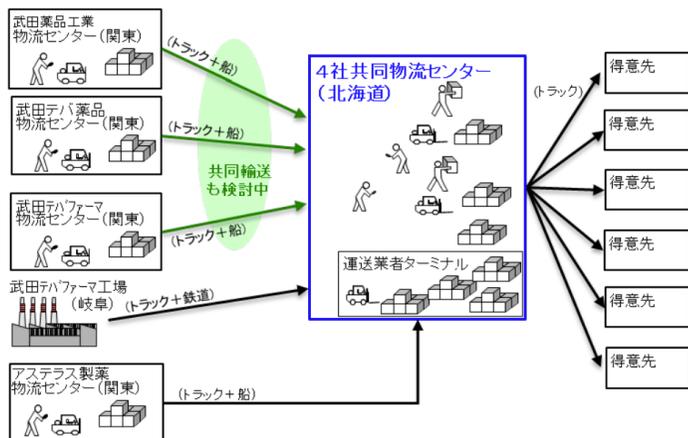
II. これまでの取組・課題

- 物流の効率化・強靱化を狙い、メーカー中心に共同倉庫・配送を開始

事例1: メーカー物流

武田薬品・アステラス製薬等4社、北海道にて医薬品の共同物流センターを設立

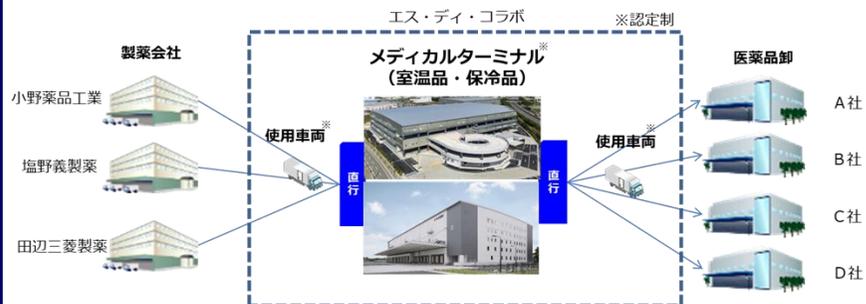
- 武田薬品、武田テバファーマ、武田テバ薬品、アステラス製薬の4社が共同の物流センターを設立。配送は三菱倉庫(3PL業者)、旭運輸(運送業者)が実施
- 本取り組みは「平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議」にて「経済産業大臣表彰」を受賞



事例2: メーカー物流

小野薬品・田辺三菱製薬等4社、GDPに準拠した共同配送の体制を全国エリアで開始

- 小野薬品、塩野義製薬、田辺三菱製薬、エス・ディ・コロボ(3PL業者)の4社が提携
- 2023年1月より開始されており、GDPに準拠した共同配送としては、医薬品業界初の取り組み



Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(1) 背景

- 人口減少に伴う労働力不足の深刻化等により、物流における需要と供給のバランスが崩れつつある
- 特に、2024年4月の働き方改革関連法の施行により、国内物流の大部分を占めるトラックドライバーへの時間外労働の上限規制等の適用による供給の変化（「物流の2024年問題」）や、昨今の燃料価格の高騰による物流事業者の輸送経費の増大・荷主事業者の物流コスト上昇等を受け、更なる物流効率化を進めていく必要がある
- 医薬品物流では、大きく3つの物流が存在、「生産物流」「メーカー物流」と「卸物流」に分かれており、川中となるメーカー物流はメーカー倉庫から卸着荷まで、卸物流は商品着荷後、医薬品卸企業群が地域における病院・調剤薬局へのラストワンマイルを担っており、ライフラインを守る重要な物流機能を担っている
- 目下、医薬品業界においては、トラック不足、残業規制等のためトラック便数の減少による納品回数の減少や、長距離区間の既規制による、物流リードタイムの長期化、納品タイミングの柔軟性、医薬品物流の品質の低下を招いている
- メーカー物流ではメーカー毎による物流・品質要件が異なることが、外装・梱包の違いによる積載率の低下や配送効率の低下などを招いており、個社単位で最適化は進んでいるが、業界全体で効率的な施策を打つことが難しい
- 一方ラストワンマイルを担う下流（卸物流）においても、卸営業所からの複数回/日の医薬品の配送などが慣例化しており、医薬品卸企業・配送業者の大きな負担となっている

Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(2) 取組の方針

- 物流効率性を改善し、ライフラインを支える医薬品物流を持続可能なものにするには、国が進める取組と強固に連携し、**業界内の医薬品メーカー、医薬品卸、物流会社が、協力、課題解決に向けた取組を進めることが肝要**
- **各企業、業界における既存の取組みと整合性を取りつつ、物流効率化に向けた標準化を進めたい**

(3) 目的

- 本WGは、フィジカルインターネット実現会議の分科会として設置。
- 医薬品の国内物流の効率化の実現に向けて、**商取引の標準慣習の見直し、標準化、効率化・デジタル化等の具体的なアクションプランを策定し、業界内の主要プレイヤーへ呼びかけ、実行を進めること**を目的とする
- 本WGでは医薬品業界における現在の課題の特定・相互理解の上で、フィジカルインターネット実現に向けたアクションプランを策定する

(4) 取組テーマ・進め方

- アクションプラン策定進め方

- 物流実態調査
- 構成員決定
- 課題共通認識

- アクションプラン作成・合意

- PI実現会議への報告

Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(4) 取組テーマ・進め方

● 暫定スケジュール

WG	📅 想定日程	🗨️ 討議内容	📄 詳細のイメージ(案)
事前	～8月上旬	<ul style="list-style-type: none">● 構成員及び外部へ物流課題を広くヒアリング・収集	<ul style="list-style-type: none">● 医薬品メーカー、卸、3PL、配送業者等へのヒアリング
第1回	8月上旬 ～ 下旬	<ul style="list-style-type: none">● 医薬品業界における本事業での検討範囲● 医薬品業界フィジカルインターネット実現に向けた課題認識合わせ	<ul style="list-style-type: none">● 事務局、アクションプラン素案の提示● 各プレイヤー現状抱えている課題の整理と討議
第2回	10月上旬 ～ 下旬	<ul style="list-style-type: none">● 課題解決に向けたアクションプランの方向性討議	<ul style="list-style-type: none">● アクションプラン案討議
第3回	12月 月上旬	<ul style="list-style-type: none">● フィジカルインターネット実現に向けたアクションプラン討議	<ul style="list-style-type: none">● 事務局より、第2回の議論を踏まえてのアクションプランを提示、討議● その他グローバル先進事例、他業界での事例の共有
第4回	2月 中旬 ～ 下旬	<ul style="list-style-type: none">● 報告書とりまとめ	<ul style="list-style-type: none">● 報告書とりまとめ

Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(5) 全体ロードマップイメージ(案)

- 2030年でのアクションプランを策定
- 下記ハイレベルな素案、今後深めていく想定

検討事項	 2024-26 準備	 2027-30 実装	 2031-35 展開・飛躍
 業界オーケストレーション <ul style="list-style-type: none"> • 業界内協力枠組 • 共通インフラ整備 	<ul style="list-style-type: none"> • 医薬品WG設置 • ロードマップ策定 • 業界枠組み構築 	<ul style="list-style-type: none"> • 業界枠組み拡大 	
 商取引の標準慣習 各プレイヤー間認識・調整	<ul style="list-style-type: none"> • 効率化プラン協議 	<ul style="list-style-type: none"> • 効率化プラン推進 	
 標準化 <ul style="list-style-type: none"> • 荷姿・梱包 • パレット・コード 	<ul style="list-style-type: none"> • 標準化ポイント策定 • シェアリング化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> • 標準化推進 	
 共同倉庫・配送 <ul style="list-style-type: none"> • スキーム構築 • オペレーション設計 	<ul style="list-style-type: none"> • 共同スキーム構想 • 試験導入 	<ul style="list-style-type: none"> • スキーム拡大、実装 	<ul style="list-style-type: none"> • フィジカルインターネット 基盤完成
 DX推進 <ul style="list-style-type: none"> • データ標準化 • データ見える化 	<ul style="list-style-type: none"> • データ標準化構想 • 仕組化検討 	<ul style="list-style-type: none"> • データ標準化推進 • 仕組み実装 	

Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(6) 医薬品WGの成功に向けた検討要素（現時点想定）

- WG設置後、取組テーマ、領域および実態調査実施の上で、テーマ確定



商取引の 標準慣習

- 物流波動
- 荷役作業低減
- 時間指定の柔軟性
- 外装破損・ダメージ基準



標準化

- 標準パレット
- GS1コード
- 納品・受領伝票
- 外装・荷姿



共同化

- 共同配送の更なる推進
- 幹線輸送
- モーダルシフト

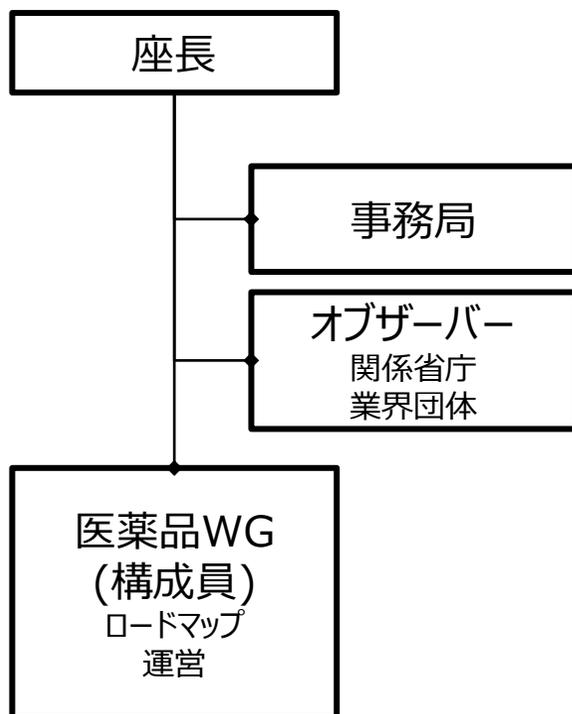


デジタル化

- 物流データ標準化・可視化
- ルールを整備した上で
の
トラックバース予約
- AI最適ルート計画
- 納品伝票/受領伝票の形式・データ化
- クリーンルーム
- (トレーサビリティ)

Ⅲ. 医薬品WGの設置提案

(7) 体制イメージ (案)



➤ 2024年7月末日途に体制確定

▲ 体制案

座長・構成員

- 事務局にて初期実態調査後、各企業・団体にお声がけし募集
- 座長が必要と認める場合、構成員の追加やその他関係者の出席を求める

オブザーバー

- 厚生労働省医政局 医薬産業振興・医療情報企画課流通指導室
- 国土交通省物流・自動車局 物流政策課
- 日本製薬工業協会流通適正化委員会
- 経済産業省商務・サービスグループ 消費・流通政策課 物流企画室

事務局 (今年度)

- 経済産業省の委託下で
ボストンコンサルティンググループが運営・企画

医薬品WG

- 実態調査を基にした物流課題の議論、切り分け、アクションプランの討議を主体で推進

開示範囲

- 原則非公開で実施。但し、事務局が必要と認める場合には、議事及び配布資料の全部または一部を公開することができる

以上

医薬品WG設置準備事務局